



真木太一著

風害と防風施設

文永堂, 1987年3月
A5版, 301頁, 4,900円

作物を栽培するには気象災害が大きい影響を与える。風害、冷害、凍霜害、干害等の気象災害の内、特に風害（強風・潮風・フェーン風・寒風・風食・冷風・冷気流害）を防止するために、防風施設（防風林、防風垣、防風ネット）による防止方法があるが、この風害と防風施設に関して詳しく解説した書物が、異常気象によって気象災害が頻発する昨今に、タイミングよく出版されたので紹介しておきたい。

本書は、Ⅰ. 風の特徴、Ⅱ. 風害と防止法、Ⅲ. 防風施設の機能と効果、Ⅳ. 防風施設の設定に関する調査、Ⅴ. 防風施設の作製方法（計画・設計・施工・維持管理）、Ⅵ. 防風施設・風害の実態調査事例で構成されている。

Ⅰ章では、風に関する一般的な気象の知識を得るためのものであり、風の方面から見た気象について要領よくまとめられている。

Ⅱ章では、風害とその防止法で風害の発生機構、場所、時期等について解説されており、また防止法は営農

的防止法と本書のメインテーマである防風施設による防止法が記述されている。

Ⅲ章では、防風施設の機能と効果についてであり、防風施設の役割として防風施設の種類、減風機能、風向の転向機能や気流の貯溜機能、微粒子の捕捉、作物の生育・収量への影響およびプラスの効果ばかりでない防風施設のマイナスの効果についても詳しく記述されている。

Ⅳ章では、防風施設を計画、設定する場合の調査方法について記述されている。

Ⅴ章では、防風施設の作製方法として計画、設計、施工、維持管理および防風施設の基本要素の決定、防風施設の樹種、資材、構造、配置法、防風林・垣の植栽方法、残置方法、防風施設の維持、管理、更新について説明されている。

最後のⅥ章では、全国615カ所の農業改良普及所での防風施設と風害の実態調査について解説されている。

風（風速・風向）および防風林・垣・ネットについて総合的に解説・記述した書物をはじめてであり、風に関する一般的な気象知識を得ることもさることながら、各種風害について、また防風施設による風害防止方法が詳しく解説されているので是非一読をお勧めしたい。

（九州大学 元田雄四郎）



熱帯雨林の消失は気候に悪影響を及ぼす

以前の研究でも、アマゾンに降る雨水の半分以上は、熱帯雨林から蒸発したものであることが知られていた。NCARのDr. Dickinsonによれば、アマゾンのジャングルを失くすると、蒸発が減り、この地域の気温は、3～5度も上昇すると云う。このような条件が続けば、1カ月から数カ月のうちに、大地を乾燥させてしまうこ

とであろう。これらの結果は、NCARの生物圏を組み込んだ気候モデルで、南米の熱帯雨林を草地に替えて、13カ月走らせた数値実験から得られたと云う。

熱帯雨林の維持の問題は、今後の大きな問題となるであろう。

（AMS newsletter 8-2 より）